

稲雲

早稲田大学
理工漕艇部OB会碧水会
会報 43 号 (臨時号)



—OB 会員による OB 会運営に関する指摘・質問事項への対応と臨時総会の開催について—

OB 会長

鳥羽博司 (S50 年卒)



OB 会員より、昨年 11 月下旬以降、OB 会の運営に関し、下記 5 項目についての指摘及び状況説明の要請がありました。OB 会員の皆様には、本臨時稲雲の紙面にて、会員の指摘事項並びに状況説明の要請内容につきご連絡申し上げるとともに、それらへの対応進捗状況と今後の対処方針につきご報告するものです。

1. OB 会員の指摘事項及び説明要請項目

- (1) 2018 年度の早慶レガッタ関係の決算が仮決算のみである。
- (2) OB 会ホームページ(HP)に総会議事録、役員会議事録や会則改訂版等の新情報の掲載がなされておらず、長く放置状態にある。
- (3) 戸田のマンションの現状報告。
- (4) 現任役員が任期が長期化しているが、役員交代についての状況報告。
- (5) OB 会会員名簿の提供要請

2. 対処進捗状況及び今後の対処方針

- (1). 2018 年度の早慶レガッタ決算が仮決算。
総務委員会早慶レガッタ班の小寺、栗原両委員により、**報告 1**の通り、取り纏めました。また、第 87 回早慶レガッタ支援活動の会計報告を**資料 1**に記載しましたので、よろしくお願いたします。
- (2). OB 会ホームページ(HP)に総会議事録、役員会議事録や会則改訂版等の新情報の掲載がなされておらず、長く放置状態にある。
土屋副会長を中心に、広報、総務他関係各委員と協力し、HP 掲載情報のアップデートを実施しております。
- (3). 戸田のマンション現状報告
土屋副会長を中心に、松村総監督、小泉総務委員長にて、マンションの購入から現在の賃貸状況に至る経緯やその背景等調査を開始しており、まずは賃貸料収入の取り扱いにつき税理士に相談の上、3 月中旬以降、処理を行うべく進めています。また、資産としてのマンションの今後の取り扱い、或いは処理の仕方に関しては、必要に応じ法務や税理の専門家に相談しつつ、本件の整理を図って参ります。
- (4) 現任役員が任期が長期化しているが、役員交代についての状況報告。

2012 年 11 月 3 日現行 OB 会執行部が発足し、6 年目となった 2018 年 3 月 1 日付けの電子版会報「暁」にて、広く OB 会員の皆様に役員候補の公募を呼び掛けておりましたが、反応はありませんでした。しかしながら、会員の皆様への呼びかけが不十分であった点は反省として、今後は、稲雲、電子版「暁」や HP を活用し、広く OB 会員の皆様への役員募集の徹底を図って参ります。

<ご参考：2018 年 3 月 1 日付け電子版会報「暁」巻頭より>

2018 年の OB 会活動も、「現役支援と OB の為の OB 会」を活動の両輪として、行って参りますが、現在の OB 会体制も 6 年目に入り、体制の新陳代謝を図るべき時期にさしかかって参りました。

OB 会役員は、現行の会則では期限の制限はありませんが、広く新たな視線や考え方をお持ちの OB 諸氏には是非とも OB 会活動に参画いただき、OB 会並びに理工ポート部の更なる発展にお力添え頂きたく、ご意志ある方には進んで下記メールアドレスまで挙手のほどをお願い申し上げます。

早大理工ポート部役員会メールアドレス

hekisuikai-yakuin@freeml.com

(5). OB 会会員名簿の提供要請

OB 会規約第十三条二項では、「会員名簿は、会員に限り必要と判断された場合に開示することとする。ただし、総務担当役員は、本会の運営に必要な場合に限り、会長の承認を条件に上記情報の一部又は全部を第三者に開示することができることとし、その場合、当該情報の保護・管理に必要な措置を講ずるものとする。」と、あることを理由に、会員名簿の提供要請あり。

OB 会執行部としては、OB 会員といえども個人からの提供要請であり、「個人情報保護法」もあり、提供をお断りしています。

OB 会員名簿の使用目的は「OB 会から会員への通信」であり、「個人情報保護法」に従えば、OB 会と言えどこの通信以外の目的で名簿を使おうとする場合は本人の同意が必要と考えております。

なお、OB 会員による指摘事項下記 2. 「OB 会ホームページ(HP)に総会議事録、役員会議事録や会則改訂版等の新情報の掲載がなされておらず、長く放置状態にある。」は、正にその通りでありました。指摘いただきました後、土屋副会長を中心に、広報、総務他関係各委員と協力し、HP 掲載情報のアップデートに努めてきておりますが、これらの失態は明らかに OB 会規約違反であり、ひとえに会長の責に帰すところであります。指摘事項への早期対処を図るとともに、新たな OB 会体制への移行を同時並行的に進めたく、4 月 14 日(日)に計画されております早慶レガッタの開催以降、可及的速やかに臨時 OB 総会を開催し、改めまして直接、OB 会員の皆様に、状況のご説明を致したく考えております。

臨時 OB 総会の開催日時につきましては改めましてご連絡させていただきますので、宜しくご出席のほど、お願い申し上げます。

以上

報告1

第87回早慶レガッタ支援活動、会計報告
総務委員会 早慶レガッタ支援担当

(S60年卒) 小寺 浩二
(S59年卒) 栗原 修一

第87回早慶レガッタ支援活動の会計報告が遅れましたことをこの紙面を借りてお詫び申し上げます。大幅な会計報告の遅れとなった原因は、①プログラム広告および協賛者名簿の原稿の一部が、早慶レガッタ運営委員会へ送付した後の作業の過程で欠落してしまい、ご協力いただいたOBの皆様への連絡と調整に時間がかかったこと、②年々支援業務が増大していたにも拘わらず、一部の役員のみが対応しておりマンパワー的に不足をきたしていたこと、③データを保管していたサーバが故障したためデータ復旧に時間を要したこと、の3点があげられます。今後このようなことが起きないように、①プログラム原稿の最終チェック手順を確認する、②支援体制と役割分担を見直し負荷を分散する、③データ保管方法の見直し(二重化等)を図る、の措置を講ずる予定です。

1月6日の第1回役員会にて、第87回早慶レガッタ支援活動の会計報告(資料をご参照願います)を行い承認されましたのでここにご報告申し上げます。

碧水会による早慶レガッタ支援活動は、早稲田大学稲門艇友会からの要請を受け、第82回大会(2013年)に再開しました。支援活動の内容は、広告金・協賛金による資金協力、当日の現地支援(陸上・水上警備員などの派遣)、ライブ配信の企画・運営などです。第87回大会(2018年)では、碧水会が集めた広告金・協賛金等は合計140万円、前日・当日のOB、学生による現地支援は延べ34名ものご協力をいただきました。また、各レースの模様をインターネットで閲覧できるライブ配信は、これまで録画放送をしていた日テレG+が撤退したため映像ソースを提供するための唯一の手段として認識され、第87回大会では2万アクセスを達成しました。今後は新しい広告価値としての期待が高まっています。

これら一連の支援活動が実を結び、①碧水会の支援メンバーが早慶レガッタプログラムに正式に運営委員として記載されるようになった、②学部対校レースの表彰状が懇親会場にて対校エイト等と同様に早稲田大学総長および慶應義塾塾長から手渡されるようになった、③女子学部対校レースが新たに追加された、などの成果を挙げております。

ご存知の通り、早慶レガッタは明治38年(1905年)に始まったボートの早慶戦です。隅田川の春の風物詩としても親しまれています。第1回大会から大会の運営費用は全てOBや企業団体からの広告金、協賛金でまかなわれています。大会開催にかかる費用は約2000万円であり、これは1レースあたりに換算すると100万円となります。我が理工漕艇部も1966年に学部対校レースとして参加して以来半世紀以上もの間、この早慶

レガッタに参加させていただいておりました。このことは我が理工漕艇部の存在の証であり誇りでもあります。一時は部員が数名にまで減り存続の危機に直面したこともありましたが、今は早慶レガッタに出漕する先輩達の勇姿を見てあこがれて入部する新人達が多いと聞きます(事実、早慶レガッタを新人勧誘イベントとしています)。OBの皆様方には、こうした状況であることをご理解の上、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災の影響を受けた混乱の後、早慶レガッタの運営も厳しい状況に陥り、ワンワセダの精神のもと、「碧水会」に対しての協力要請があったわけですが、運営上の決まり事も多く、今日のような成果を上げるためには、様々な独自の試み続け、早慶レガッタ運営委員会の理解を得てきました。

最も大きな成果を上げたのが、「碧水会独自で広告を集め、紙面を編集する」という工夫です。元々、紙面広告は2万円からしかなく、個人での支援を得ることが困難でした。また、協賛金は一口7,000円ですが、記載されるのは名前だけで、応援コメントなどを記載することができません(早慶体育会OBには別にコメントの枠がありますが、碧水会にはありません)。そこで、碧水会として広告をとりまとめ、紙面も編集して提供することで、1万円や5千円の支援枠を作り、コメントも掲載できるようにしたわけです。今まで、理工クルーの紹介頁の下に関係ない広告が掲載されていた部分に、第87回大会ではクルーの保護者からの応援広告が掲載できるようにまでなったのも、この方法で碧水会が編集しているからこそです。

碧水会が主導して進めてきたライブ配信やスタート応援企画など、現在の早慶レガッタの活性化につながる新たな試みができたのも、こうして「碧水会」として、広告金・協賛金・支援活動費などをとりまとめてきたが故であり、今後もこうした形式で支援を募ることが重要であることを是非ご理解いただきたいと思っております。すでに第88回大会運営委員会が発足し4月14日(日)の開催に向けて準備が進められております。碧水会としましても引き続き支援活動を継続してまいりますので、OB皆様にはご支援ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

なお、広告費と協賛金の収入と支出が異なっている点については、以下の通りです。

- ① 広告費 碧水会としてとりまとめて編集することで、頁単位で広告費を支払うことができるため、支払額が安くなる。差額については、碧水会の支援活動に活用。
- ② 協賛金 個人の協賛金に加えて、事務局で判断した額を碧水会からのものとして加えているために、収入よりも支出が多い。原資は、①の差額と運営費から捻出。

以上

資料1

第87回早慶レガッタ 支援活動 会計報告

2019.1.12
早慶レガッタ支援担当

収支報告

分類	金額	内訳	金額	備考
①前年度繰越金	168,199			2017.7/11通帳記録
②収入の部	1,397,009	広告	972,000	12団体+7企業+個人(1万)×22名 +個人(5千)×11名
		協賛	205,000	碧水会(OB会)から10万+個人(7万)1名 +個人(7千)×5名
		運営費	220,000	団体(3万)×1+個人(1万)×16名 +個人(5千)×6名
		受取利子	9	
③支出の部	1,222,700	広告	750,000	巻頭1P(10万)+1P(7万)×5P+1/2P(5万)×6P第 87回早慶レガッタ運営委員会へ振込
		協賛	240,000	第87回早慶レガッタ運営委員会へ振込
		支援活動費	230,240	支援活動費内訳参照
		振込手数料	2,460	現地支援費(学生)の振込手数料
④2018年度収支	174,309			
⑤次年度繰越金	342,508			

支援活動費 内訳

分類	金額	内訳	金額	備考
支援活動費	230,240	懇親会費補助	80,000	当日及び運営委員会など(出費の半額)
		現地支援費	43,000	学生7,000円×4名+5,000円×3名
		交通費	32,551	会議・現地・レンタカー代等
		資料費	13,210	コピー代等
		消耗品など	61,479	スタート企画用モニター等
		合計	230,240	

監査報告書

2018年度開催の早慶レガッタの早稲田大学理工漕艇部OB会分の決算内容について、慎重に監査した結果、適正、妥当であると確認しましたのでご報告致します。

また、早稲田大学理工漕艇部OB会の一般会計と早慶レガッタ会計と分離した2015年度～2017年度の3カ年についても決算内容が適正であることを確認いたしました。

2019年度以降は、早慶レガッタ終了後、概ね3カ月程度を目安に決算報告をすることを指摘して監査報告といたします。

2019年 / 日29日

早稲田大学理工漕艇部OB会

監事 中山 清

